
夢

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢

【Nコード】

N1344A

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

最終兵器彼女のストーリー。

世界は白い光に包まれた。そう、ちせの手によって
その時僕は死を覚悟した・・・
そして、僕の前は真っ白からやがて、真っ暗になった。

「…ちゃん、シュウちゃん」

声が聞こえて、僕は目を開いた：すると、目の前にはちせがいた。

「やっと起きた！おはようシュウちゃん」

「ちせ！？ここはどこだ、ちせはなんでここにいるんだ！？」

「ここはシュウちゃんの部屋だよ？ 昨日シュウちゃんが来いって
いったから来たら、おばさんに起こしてきてって言われて」

「俺の部屋？」

周りを見回すと、確かに僕の部屋だった、地震によりひび割れもな
かった。

外を見ると、壊れたはずの町も平和そのものだった。

そう：まるで戦争なんてなかったかのように…。

まさかと思い、僕はちせに聞いた

「俺は、なんでちせを呼んだんだっけ？」

ちせは少しだけ怒って言った

「今日、一緒に札幌行くって約束したでしょ！忘れちゃったの？」

思った通りだった、今は戦争なんて起こる前だった。

『ってことは今日空襲が始まるのか！？ちせは兵器になっているの
か！？』

そんなことを考えていると心配になり、気が付くと僕は、ちせの服
をぬがして、胸にキズがあるかを確かめた。

「よかった…」

胸にキズがなくて安心してると、

「シ、シュウちゃん…いきなりこんな事されても困るよ…」

ちせは真っ赤な顔をしたまま言った

僕は、自分のしたことを冷静に考え直したら恥ずかしくなった。

「ちせごめん、違うんだ本当にごめん」

ちせの服を戻し何度も謝った

「シュウちゃんどうしたの？もういいよ、少し驚いただけだから
しばらく沈黙が続き

「そうだ、札幌に行くんだったよな、ちょっと着替えるから待って
ろ！」

「うん」

まだ、なんで僕がここにいいのか、戦争はまたこれから始まるのか？
など、疑問を残したままだったが、今日は出来るかぎりちせとの
デートを楽しみたいと思った。

そして、札幌へ着いた

「シュウちゃん、初めてのデートだね♪」

「そうだな」

やはり僕の記憶には戦争の記憶はあるが、ちせにはなかった。
色々話していると目的地に着いた。そこで買い物をした。

「シュウちゃん、これどーかな？似合う？」

ちせは、少し顔を赤くして小さな声で聞いてきた。

僕は、正直ちせには大人っぽすぎると思ったが、ちせを少しでも喜
ばせたくて

「うん、結構似合ってるんじゃないか」

「ホント！？よかった」

ちせの笑顔を見て、今僕がここにすることが嬉しくなった。

そして、そのまま買い物が続けていると

：地面が少し揺れ始めた。

『まさか、空襲！？やっぱり戦争は起こるのか！？』

怯えているちせの手を、強くにぎりしめて、僕たちは外に出た。少しして地面の揺れはおさまった。

「なんだ、ただの地震だったべや…」

「シュウちゃんも地震苦手なの？すごい汗いっぱい出てるよ。」

もちろん戦争と勘違いした。などと言えるはずもなく、

「実は、少しだけ苦手なんだ。ちせほどじゃねーけどな」

「そうだよ、ごめんね。あたしこーゆーの苦手なんだわ。」

この後は、何もなくデートは終わった

家に帰り、考えなおしてみたが、戦争の記憶がリアルすぎて、全然分からずそのまま眠りについた。

次の日

「シュウちゃん、学校遅れるわよ！早く起きなさい！」

母の声で目覚めた。

もう完璧遅刻する時間だったので、すぐに着替えて、ちせとの待ち合わせの場所へ行った。

「ちせもういっちまっただろうな」

待ち合わせ場所でちせは待っていた。

「おそーい！シュウちゃん、遅刻しちゃうよ」

「わりいちせ、遅くなったまったな」

「いいよ、シュウちゃん急ごう！」

「勝手かしんねーけど、どーせこのまま行っても遅刻だし、1時間目さぼっちまわねーか？」

「うん！…でも後で怒られちゃうね」

「わりいな、じゃあゆっくり行こーぜ。」

そして、ゆっくり話しながら学校に向かった。

1時間目が終わり、僕とちせは学校に着いた。

アツシ「おせーよ！シュウジ」

教室を見回すと、アツシがいるアケミもいる、タケにノリも…。

それを見たら、涙が出てきた。

アツシ「どーしたんだよシュウジ、急に泣き出したりして」

シュウジ「なんでもねーよ！あくびしたからだよ」

アツシ「そーか、それより先生のところ行ったほうがいいんじゃないか？どーせ怒られるだろうけど」

シュウジ「人事だと思って…」

ちせと僕は少し怒られた。それ以外は何もなく、普通の学校生活だった。

また考え直してみた。

もしかしたら、今までの事はすべて夢だったんじゃないか？

それとも、僕は今ちせの光の中で夢を見ているのか？

だが、どーでもよかった。

現に今、ちせやみんなと平和に暮らせているから。それが夢の中だとしても。

今までの戦争という記憶が、夢なら嬉しいが、今が夢なら、永遠に覚めないでほしい。

僕はただ、そう思った。

—END—

(後書き)

自分のしたいようにしてしまいました。
7巻でシュウジが最後一人になり、これは夢なのか？という台詞から夢にしちまえばよくない？とか考えてつくりました(笑)
戦争の記憶が夢か、平和な今の生活が夢かは、みなさんそれぞれ、好きにお考え下さいm(____)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1344a/>

夢

2010年10月10日14時25分発行